

# ひとり一人が豊かさや 生きがいを感じることに できる一年に

社会福祉法人 京都府社会福祉協議会 会長 小畑英明



新年あけましておめでとうござい  
ます。

はじめに、新型コロナウイルス感染症の終息が未だ見えない中、福祉・介護サービスの提供や各種相談・支援などの地域福祉の最前線で感染予防に細心の注意を払いながら、日夜御奮闘いただいている皆さま方に深く敬意を表しますとともに心から感謝を申し上げます。

さて、一昨年から新型コロナウイルス感染拡大は、私たちの日常生活や社会経済に大きな変化と影響を与えました。京都府内においても多くの業種で事業縮小や倒産など府民生活、社会経済に及ぼす影響は深刻で長期化しております。とりわけ、非正規労働者、女性、子ども、介護が必要な高齢者や障害者の方々などに、より深刻な影響を及ぼしました。コロナ禍で生活困窮や社会的孤立の

問題も顕在化しています。また、本会が実施している生活福祉資金の特例貸付において、申請者の厳しい生活状況や格差の拡大を目の当たりにする中で、社会福祉の果たすべき役割はますます重要になっていくと考えております。

私ども京都府社会福祉協議会は、第5次中期計画の「つながりをとことして、だれもが尊厳をもっていきることができる社会をつくる」という目標のもと、地域で重層的に見守りを支える「絆ネット」づくり、日常生活における自立支援など地域における権利擁護支援体制づくり、子ども食堂やこどもの居場所づくり活動を支えるネットワークづくりなどに取り組み、誰一人取り残すことなく、ひとり一人が豊かさや生きがいを感じることをできる地域づくりを進めてまいります。

幸い、コロナ禍にあっても、各地域において住民同士がつながり新たな取り組みや活動が生まれるなど明るい兆しもありますので、今まで以上に市町村社会福祉協議会や民生児童委員、保護司、社会福祉施設や各種福祉団体、ボランティアなど高い志を持って福祉の仕事をしてこられた方々との連携を深めてまいります。京都府の全ての社会福祉関係者の思いを一つに集め、アフターコロナを見据えて未来志向で誰もが希望を持てる地域共生社会づくりに向けて、寄り添いながらさらなる歩みを進めてまいりますので、引き続き御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

皆さまにとりまして、令和4年が素晴らしい年となりますことを心からお祈り申し上げます、新年のごあいさついたします。

令和3年度  
人権擁護啓発  
ポスターコンクール



## 京都府社会福祉協議会会長賞が決定しました！

人権擁護啓発ポスターコンクールは、府内の小・中・高等学校の児童・生徒が、人権をテーマとしたポスター（絵画）の制作を通じて基本的な人権について一層理解を深め、人権尊重の精神を養う機会とするため昭和59年度から実施されています。

今年度は小・中・高の中から179校4,285点の応募がありました。

その中から京都府社会福祉協議会会長賞として、精華町立東光小学校 内本楓雅さんの作品が選ばれました。作品は人権情報ポータルサイト「京都人権ナビ」でご覧になることができます。



<https://kyoto-jinken.net/informations/informations-5341/>